

【聖書預言が示す人類歴史の最終ゴール：ダニエル 70 週の預言を学ぶ】

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

私はこの日曜日に、奈良県の王寺（おうじ）という所で聖書の講演会をしました。そしたら目の不自由な方が、高野山（こうやさん）から 3 時間半以上かけて、杖をついて、色んな方に聞きながら来たと。そんなに時間をかけて遠くから来て下さったので、講演が終わった後で個人的にお話しました。

「高原さんは、どうやって聖書を読むようになったんですか？ どうやって神について考えるようになったんですか？」「私は幼い頃に、教会学校というのに行っていました。」「え、一緒ですね。私も教会学校に行っていました。」「どこの教会ですか？」「密教修行教会。」お寺も、教会と呼ぶお寺があるようですね。ちょっと違うかな？ 大分違うかな？

その方が「YouTube を音声で聞きながら、時々、涙がとめどもなく溢れて来る時がある。私は仏教徒だけど、なぜか分からないけど、キリストという人格に惹かれて仕方がない。何よりも、聖書は人生訓とかじゃなくて預言なんですよ。」

聖書の預言を考えた時「そうです。これから未来にどんな事が起こるのかを、前もって語っているんです。」前もってどのように流れて行くのか知ったら、大局観を身につける事が出来るんじゃないかと思います。

昨日（2018）、アメリカで中間選挙ありましたね。私はトランプさんを個人的には好きじゃないけど、日本の同盟国のリーダーのリーダーシップが弱くなるのは良くない。だから、共和党勝ったらいいなと思って、共和党の色のネクタイをして来ました。青が民主党、赤が共和党。

なぜそうするかというと、大局観に立って見ると、今トランプが弱くなるという事は、日本にとって絶対にマイナスだからです。

大局観についてですが、昔読んだ中国の話です。ある国に、非常に上昇志向の男が 1 人いました。とにかく成長したい。出世したい。成功者になりたい。頑張るんですが、その時の王様は文官が好き。キャリア組の役人を優遇する王様。中国で役人になるにはメチャクチャ厳しい試験があって、半端ない受験勉強をしなければならない。何年にも渡って一生懸命勉強して、遂に、今年受験したら合格できるんじゃないかという実力にまでなって、いよいよ受験しようとした時に、大変な出来事が起こりました。その王様が死んだんです。

そして新しい王が立つのですが、この王は文官には興味がなく軍人優遇。今まで冷遇されていた軍人たちは「遂に俺たちの時代が来た！」。軍人がエリートで、もてはやされました。彼は軍人になるために、今からでも努力してみる価値はあるという事で、個人的に武術を習います。ガンガンに体を鍛えて、兵法を学んで、一人前の兵士として抜擢されるようなスキルを身に付けて、志願しようとした矢先に、この王様も死んだんです。

また新しい王様が出て来るんですが、3 番目の王様は今までとは違った趣向。彼は樂觀していました。「次は文官を重んじようが軍人だろうが、私は両方の道を究めている。どちらにしても、私はもうスキルがあるから大丈夫だ。」ところが、この王様が優遇したのは若者でした。彼は受験勉強と軍事的技術や武術を身に付ける修行で、すっかりおじさんになっていた。結局、彼はどれにもなれなかったという話。

彼は頭の回転速いと思います。だから科挙の試験にパスするくらいの実力がある。

また、体が頑強で強いと思いますよ。だから軍人としてもやっていけるんでしょう。そして、時代の王様が求めている事に対して、すごく聡いというか、情報のアンテナをいつも張っている。ただ彼は、いつも目に前にある情報・目に飛び込んで来る事にばかり反応して、その時代に合わせようとする。時代なんて1年変わるだけで、傾向がガラッと変わります。

2年前(2016)、あのトランプ大統領が大統領になるなんて分かってましたか? あと出しじゃんけんで「分かってたよ」と言う人が、いっぱい出て来るんですよ。

トランプ大統領が候補者の時、何と言われてましたか? 天才と言われてたんです。どれくらい天才かと言うと、現在の知能を2歳にして既に持っていたと。これ、悪口だと分かりますか? つまり、2歳の時から知能が発達していないと言っているワケ。そんなん、差別じゃない? 「あはは」と揶揄されていた人物が中間選挙で1勝1敗。僕はハッキリ言って、勝ったと思ってるんです。

なぜ中間選挙と言うのか? 4年に1回の大統領選挙の、ちょうど中間にする選挙だから中間選挙。大統領を前半やらせてみて、国民が審判を下すんです。「あんた2年間やってみたけど、あんたの通知簿はこれです!」。歴代大統領の中で、中間選挙で勝った人は2人くらいしかいないんじゃないですか?

折り込み済みです。正直に言って、上院の方が大事だったんです。上院でグッと上げましたね。これは非常に大きな勝利です。というのは、トランプ大統領は共和党の大統領なのに、共和党の重鎮・長老たちから煙たがられていて、「おまえは保守本流じゃない!」と干されてたんです。

ところがこの中間選挙で、今までトランプ大統領にお説教していたこの重鎮たちは皆引退しました。

今共和党は、完全にトランプの党になったんですよ。負けたんじゃない。

でも、今日はその話じゃないんです。今日はダニエル書に行かないと。

なぜこの話をしたかと言うと、大局観なんですよ。今中国はやっぱり、大局観で動いていると思います。習近平は「中国製造2025計画」というのをやっています。

「2025年までにハイテク製品・バイオ技術・人工知能製造品は、中国が90%握るようになる。そのために中国は何でもやる。」「何でも」の中にスパイ行為が入っています。

そして、「2049年までにアメリカを凌駕して、中国は人類にそびえ立つ国になる。中華民族は全民族から仰ぎ見られる民族になる」と。2049年は共産党結成100周年の節目。その実現のために何でもやるという大局観に基づいて、ずっと動いている。

それに対して、今のトランプ政権はカウンターですよ。米中戦争。米中経済戦争じゃないんです。

日米経済戦争と昔言いましたが、それは日米の経済的な競い合いが、「戦争になぞらえられるほどに激しい」という形容詞として「戦争」を持って来た。今行われている米中経済戦争は戦争なんです。

弾丸の代わりに「経済」というこん棒を使って、今中国を叩いている。

「中国を育てて民主主義・市場経済の中に迎え入れて行ったら、やがてアメリカのようになりたいと思うだろう」と思ったのがそもそもの間違いで、メチャクチャな事をやった。

この中間選挙の直前、アメリカの連邦政府が470億円かけて、ある事をやりました。全ての州の投票所の電子投票機を、丸ごと新品に変えているんです。

この辺に住んでいる方は、期日前投票は区役所に行って、書きにくい鉛筆で書きますね。アメリカは電子投票機で投票する事が多いんです。そのメリットは無効票が生まれにくい。書いてたら、時々読まれへん字とかあるよ。だけど電子投票機は、タッチパネルで自分の候補者をピッと押すだけ。

そして集計の時、数え間違いが起こらない。すごくいい装置だと一気に普及しました。

ところが2年前(2016)の大統領選挙以降、いくつかの選挙があったのですが、大変な事が分かって来た。電子投票機のソフトウェアは、選挙管理委員会が契約した地元の会社が提供しています。そのソフトウェア会社の親会社をずっと辿って行くと、大抵ロシア人や中国人なんですよ。そして実は、操作ひとつで当選者をひっくり返す事ができるような、マルウェアというか、ウィルスを仕込んである事が分かって来たんです。

ロシアと中国が今やっている事は、民主主義のシステムを使って、民主主義を破壊するという事。この中間選挙の直前に、中国がそれをやっている事が分かったので、トランプ大統領が無茶苦茶に怒った。それで470億円もかけて、全米の電子投票機を丸ごと新品に交換している。こんな価値観の国が世界を牛耳るようになって行ったら、世界は幸せになるのか？
今、米中冷戦時代の幕開けと考えていいと思いますよ。

という事で、これがしばらく世界の潮流になるので、日本にとっては追い風です。経済力ナンバー2の国がナンバー1の国から圧力を受けたら、ナンバー2の国はナンバー3の国に擦り寄るんじゃないですか？安倍さんが首相になられて第2次安倍内閣で6年間、1回も中国に行った事が無い。プーチンと今度23回目、会うんですよ。アメリカには約70回行ってます。日本の首相が北京に行ったの、7年振りですよ。なぜこの7年間(2018年時)、日中首脳同士の訪問外交がないかという、関係が悪化しているからです。

ところが、手の平返したみたいに「是非来て下さい」という事で、安倍さんが行かれましたね。習近平は「来年(2019年)の5月に呼んで」と、今言ってるんです。2019年5月、何がありますか？新天皇の即位式。新しい天皇になった時、最初に会う外国の要人は中国のトップであるべきだと考えています。安倍さんはそれを呑まないと思いますよ。6月にするんちゃうかなと。その前に、やっぱりトランプじゃない？とにかく、そういう大きな流れというのを見て行かないと、目先の「パンダくれるから」という事ではダメなんですよ。

因みに、パンダくれたけど、安倍さん、激怒したでしょ。外務省の役人に。「いつ、そんな事頼めと言った?!勝手な事するな!」みたいに。だから、読めてない。
「おまえ、どこまで読めてんねん?」と言われたらアレですけど。大変です。

さて、これが21世紀の今の基調ですが、これから世界がどうなっていくのかを考えた時、これからはアメリカがずっと世界のトップを走り続けるのか？それとも2049年を境に、中国がアメリカに代わって世界を牛耳るのか？それとも第3の別の国が現れて、世界を支配するのか？

今日皆さんと一緒に読む**ダニエル書**は、「人類歴史の最後に世界を支配するシステム」について書いてある預言書です。

ひと言で言うと、最終的に世界は、これから世界統一政府の時代に入ります。今日本は日本政府・アメリカはアメリカ政府・韓国は韓国政府がそれぞれ統治していますが、そうではなくて、世界200の国の上に乗っかる世界統一政府が世界中を統治する時代が来ます。だけど、それは上手くいかない。

世界統一政府ができた後、上手くいかないの、そこから10のブロックに分かれて、国ないし国家集団が出て来ます。

10 ブロックがそれぞれ自分の範囲を支配しますが、その時代に1人の超人的人物・悪魔的な人物が出て来て反キリストと呼ばれます。そして、10ブロックの内の3つを潰します。徹底的に。それを見て震え上がった残りの7つは、独裁者反キリストの言う事を何でも聞くようになります。

この人物がイスラエルと7年契約を結ぶ事によって、ある時代に入りますが、その7年契約の時代を「患難時代」と言うのです。患難時代は、人類が今まで過ごして来た時代の中で最も苦しい時代です。前半の3年半だけで、世界人口が半分になります。戦争・飢饉・パンデミックなど様々な事で。後半の3年半で、また半分になります。恐るべき時代。

しかし、この恐ろしい時代の苦しみは永遠には続きません。7年きっかりで終わります。7年きっかりで強制終了する方が現れます。それが「再臨のキリスト」です。イエス・キリストは十字架にかかって墓に葬られ、3日目によみがえって天に帰りましたが、また地上に来ます。イスラエルのエルサレムの東側にあるオリーブ山に下りて来て、その時、反キリストの軍隊をせん滅します。

そこから、人類がずっと願っていたメシア的王国（千年王国とも言われます）・地上に理想郷が1000年間続くのです。

ですから、人類歴史のゴール・世界はどこに向かっているのかということ「キリストの再臨と千年王国」に向かっているんです。そのゴールに辿り着く前に、非常に苦しいところを通ります。

これをざっくりと頭に入れて頂いて、早速**ダニエル書**を見たいと思います。これ、私は余り自信がありません。準備し過ぎて…、あの…行きます！

ダニエル書 9章。ダニエルとは人の名前・預言者の名前です。ダニエルはバビロンとペルシアの政治顧問として活躍していた人で、ただ聖書ばかり研究しているのではなく、実際に行政・政治・王様のアドバイザーとして活躍した人物です。書かれたのは約2600年前。9章が書かれたのはBC538年頃です。

この預言を書いた時、ダニエルの出身地ユダヤ人の国は影も形もありません。**ダニエル書 9章**を書いた約70年前に、バビロンという国によって国は滅ぼされ、神殿は炎上し、国民は捕虜としてバビロンに引っ張って行かれました。その捕虜の中の1人がダニエル自身。自分が生まれ育った国はどこにもない。

そういう中でダニエルは、旧約聖書の預言を読んでいた時、「捕囚されて70年後に、国に帰ってもいいという命令が出る」と書いてある事を知るので。70年までもうすぐ。その時、「神よ、どうぞユダヤ人の罪を赦し、私たちの過ちを赦し、ユダヤ人の国を、エルサレムを復興し、私たちに輝かせて下さい!」と、一生懸命お祈りするんですね。

その祈りに応えるように、ガブリエルという御使いが現れます。ガブリエルは「あなたの祈りは神様に聞かれているよ」と励まし、同時に「あなたの祈りに応えて、今まで誰も知らなかった、これから世の終わりに至るまでの、精密で正確な預言があるから、あなたはそれを知り、悟りなさい」と言って、教える箇所が**9章 24節**以降です。

ダニエル 9:24 あなたの民とあなたの聖なる都について、七十週が定められている。それは、背きをやめさせ、罪を終わらせ、咎の宥め（なだめ）を行い、永遠の義をもたらし、幻と預言を確証し、至聖所（し

せいじょ) に油注ぎを行うためである。

あなたの民はユダヤ人。あなたの聖なる都はエルサレム。七十週が定められているの「週」はヘブライ語で「シャブイーム」。シャブイームは7つをひと固まりとする単位です。

例えば、1 ダースのダースは12をひと固まりにする単位。1 ダースは12。2 ダースは24。

70週/70 シャブイームは70の7倍。490年の事です。

「あなたの民（ユダヤ人）とあなたの聖なる都（エルサレム）について、あなたがどんなに心を痛めているか、わたしは知っている。」

ユダヤ民族の復興とエルサレム再建について、490年という時間枠の中で、神が復興させ、神が持っているプログラム/プランを実現します。いつまでも放ったらかしにされる事はない。

「今から言う70週の預言の中に、イスラエルの復興が全て書いてあります。だから、それを知り、悟りなさい」という事です。

最初にざっくり言います。70週は3つに分ける事が出来ます。①7週 ②62週 ③1週 の計70週。

①と②は連続しています。しかし、7週+62週=69週の後、3つの事が起こらない限り、最後の③の1週は起こりません。その3つについても、9章にちゃんと書いてあるんです。

神様は490年という時間枠の中で、ユダヤ民族及びエルサレムの復興についての約束を全部果たすと言われました。70週は7週・62週・1週に分ける事ができる。つまり、49年・434年・7年。

この7年が患難時代。いつから始まるのかが問題ですね。

ダニエル9:25 それゆえ、知れ、悟れ。エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。そして苦しみの期間である六十二週の間、広場と堀が造り直される。

知れ、悟れ。よく考えなさい。

エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから。命令が出たその年が70週預言のスタートです。

さて、エルサレムを復興せよという預言。これは妥当なものとしては（細かく分けたら4つあるのですが）2つです。「エルサレムを復興し、再建せよ」と書いてあるでしょ。

「エルサレム神殿を再興せよ」という命令ではない。

神殿を建て直す命令ではなく、「エルサレムという都市を再建しなさい」という命令から始まる。

神殿再建の命令なら、他に2つあります。しかし、都市の再建は今から申し上げる2つ。

なので、その内のどちらかです。

①BC538年、ペルシアの初代王キュロスが「ユダヤ人たちよ。エルサレムに帰って、神殿建て直してもいい」という命令を出しました。

②BC445年、ペルシアの王アルタクセルクセスがネヘミヤに「エルサレムの城壁の修理のために帰りなさい」という命令を出しました。アルタクセルクセスは、前の聖書ではアルタシャスタ。

今の聖書（新改訳2017）は世界史の教科書に出て来る名前に統一してます。

だから、アルタシャスタもアルタクセルクセスも一緒です。早口言葉みたい。

私が尊敬し、注目し、参考にしている多くの預言解説や注解書・聖書研究書を書いた方々の殆どは、②を支持されるのです。

昔イギリスで、貴族出身のサー・ロバート・アンダーソンが『来たるべき君主』という本を書きました。

「BC435年3月14日に、アルタクセルクセスは『エルサレムに帰りなさい』との命令を出した。この預言から始まったとして勘定すると、ちょうど69週目に当たるのがAD32年4月6日。」

4月は過越しのシーズンですね。

「AD32年4月6日こそは、イエス・キリストが十字架にかかるためにエルサレムに入城した日だ。」
多くの福音的な、私が尊敬している方々も、これを「凄い」と言うし、私も以前は言っていました。

イエス・キリストは「過越（すぎこし）の祭り」の当日に十字架にかかります。

実はAD32年4月6日は、過越の祭りはずれているんです。AD32年に限って、4月の上旬は過越の祭りじゃない。という事は、これは違うんです。

これを紹介している方々の本の他のページは全面的に支持します。ただ、この点についてはそうじゃない。

それならば、①の「BC538年、ペルシアの初代王キュロスが『ユダヤ人たちよ。エルサレムに帰って、神殿建て直してもいい』という命令を出した」しか残りません。

もっと厳密に言うと、「エルサレムを復興し、再建せよ」という命令ですが、アルタクセルクセスの命令は城壁の再建。物足りない。「廃墟になっているエルサレムを建て直せ」と言うのに、城壁だけって。なんで城壁だけでええの？もう、城壁の中身は出来上がっているから。再建は終わっているんです。それを考えると、BC538年のキュロスという事になる。

それから、皆さんが調べた年号とは1-2年違うと思います。これは私も調べて分かった事ですが、ペルシアの歴史書は非常に不正確。同じ本で同じ出来事を語っているのに、年数がずれている場合がある。だから、どこの本文を採用したかで1年増えたり減ったり。なので、そんな事で悩まなくていいです。良心的クリスチャンの皆さんは「どれを信頼したらいいのか…。」1-2年くらい大した事じゃない。

「そもそも、ペルシアの原本の方が不正確だったからだ」という事で押し切って下さい。

キュロス王は初代アケメネスペルシアの王様。BC538年に「エルサレムに帰って、再建していい」という命令を出しました。なぜそんなにユダヤ人に物分かりが良かったのか、不思議だと思いませんか？

キュロス王は、ユダヤの国を滅ぼしたバビロンを一夜にして占領し、偉大なバビロニア帝国を滅ぼした天才的な王様です。どのように陥落させたかは、以前何度かお話ししているので、今日は時間がないのではしよります。バビロンの街中を流れているユーフラテス川を奇跡的に堰き止めて、その中をジャブジャブと軍隊を極秘に送り、一夜にしてバビロン王を包囲して捕え、その場で処刑しました。

キュロスがバビロンに入って行った時、ダニエルはその現場にいました。。[ダニエル書1章](#)にそう書いています。ダニエルはキュロスが入って来た時、それを見ている。キュロスとダニエルは、その時が初対面。ダニエルが、これから王になるキュロスに面会した時、どんな話をしたのか具体的には書いてないけれど、十分予測する事が出来ます。

ダニエルは旧約聖書を引っ提げてキュロスに会いに行った、としか思えません。

[イザヤ書](#)を見ましょう。イザヤ書はダニエルの時代よりも150年前に書かれた預言書です。

それを頭に入れて、[イザヤ44:27-28](#) 淵については「干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす」と言う。キュロスについては「彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる」と言う。[エルサレムについては「再建される。神殿はその基が据えられる」と言う。](#)

キュロスがバビロンに入る150年前に、預言書[イザヤ書](#)にキュロスの名前がある。

なので、ダニエルはキュロス王に面会した時、「陛下、私どもユダヤ民族は神の言葉を預かっております。その生ける神の御言葉の中に、陛下のお名前が名指しで載っております。その預言では、陛下は淵（ユーフラテス川）を干上がらせて、一夜にしてバビロンを占領するだけでなく、その後、イスラエルの神が望む事を全て成し遂げる人物だと紹介されています。」

イスラエルの神が望む事は、エルサレムについては「再建される。神殿はその基が据えられる。」
2つの事。エルサレムの町の再建と神殿の再建。

ダニエル書に戻ります。ダニエル書が書かれたのは、**ダニエル 9:1** **メディア族のクセルクセスの子ダレイオスが、カルデア人の国の王となったその元年**。これが、キュロス王がバビロンに入ったのと同じ年。

話が込み入るのでもう言いませんが、言いたい。でも言えない。どうしよう。

メディア族のクセルクセスの子ダレイオスはキュロス王のおじさん。彼はバビロンを取った時、手柄をおじさんにあげたんです。

田中角栄（たなか かくえい/1918-1993）が言ったでしょ。「汗は自分がかきましょう。手柄は人にあげましょう。」これが目白の闇将軍の秘訣ですよ。

「バビロン攻略の汗はキュロスが流しましょう。手柄はダレイオスにあげましょう。」

これは、ダニエルがキュロスに旧約聖書を見せているその年の事。よって、**ダニエル書 9 章**は BC538 年に書かれたという事が分かるわけです。その同じ年（BC538）にキュロス王が命令を出して、「エルサレムに帰って良い。神殿を建てて良い。復興させて良い。」

つまり、この記事が書かれた背景を考えると、「エルサレムを再建せよ」という命令は、BC538 年のキュロスと考えるのが妥当だと思います。ちょっと難しい方は飛ばして下さい。とにかく BC538 年なんだと。

ダニエル 9:25 **エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。**

油注がれた者はマシアハと言います。これがメシア/メサイア。ギリシア語でクリストス。日本語読みでキリスト。救い主イエス・キリストの事。

王様・預言者・祭司が就任する時、神様の霊が降って来るひな型として油を頭に塗りますが、油注がれるという事です。

来年（2019年）5月1日に新しい天皇陛下の即位式がありますが、それは新しい天皇になった事を内外に告知させる式です。ヨーロッパで王子が王様になる時どういう式をするかというと、多くの人は戴冠式だと思っています。王のクラウンを頭に載せてもらう。それもありますが、もっと重要な事は油注ぎ。

今ヨーロッパには10のロイヤルファミリーがあります。イギリスのエリザベス女王は92歳。お元気。すごいな。物忘れとかないんかな。ヘルパーさん、入ってへん。デイサービス、行ってへん。

彼女が引退なさったら、多分チャールズ皇太子が国王になられる。その時、聖公会のナンバー1の司祭が油注ぎします。王には油を注ぐ。これが、戴冠式の前にする一番重要な儀式です。

それはどこから来たかという聖書。サムエルがダビデに油注いで「あなたは将来王になる。」

油注がれた者は、やがて王になる方、すなわち人類の王の王・主の主・人類の預言者・人と神を結びつける神の御子の**大祭司キリスト**の事。キリストについて書いてあるのが**ダニエル書**の預言。

その中で、初めて登場する（初臨）キリストについて書いてあるのが、この 70 週の預言なんです。
エルサレムを復興し、再建せよとの命令が出てから、油注がれた者、君主が来るまでが七週。
七週。句読点（。）が打ってある。これでは BC538 年から 7 週、「49 年目に油注がれたメシアが誕生する」と読めてしまいます。これは大きな誤解を生む翻訳です。
自分は出来るんかと言われたら出来ませんけどね。

ヘブライ語の聖書では、7 週と 62 週が続きになっているんです。新共同訳聖書で見ると分かりますが、ニュアンス的にはこう書いてあります。「油注がれた者、すなわちキリストが来るまでが 7 週と 62 週。」

つまり「BC538 年に再建命令が出てから 69 週目以降にメシアが生まれます」という預言です。
なぜ 69 週と言わずに 7 週と 62 週、誤解を生むような曖昧な言い方なのか？
最初の 7 週、再建命令が出て 49 年間の間にエルサレムが再建されるから。
それから 62 週後、すなわち再建命令が出てから 69 週以降にメシアが生まれる預言です。
ここまでは大丈夫でしょうか？ 後で繰り返し聞いてみて下さい。

69 週の間にはどんな事があるのか？

ダニエル 9:25 そして苦しみの期間である六十二週の間、広場と堀が造り直される。

69 週（483 年間）には、いい事と悪い事があります。いい事はエルサレム再建。
悪い事は、ユダヤ人はエルサレムが再建されているのに 483 年間苦しむ。いや、エルサレムが再建されているからこそ、一層苦しい苦しみの時代になる。

BC538 年に再建命令が出て、それから 483 年後は BC55 年くらいです。しかし、これはユダヤ暦。
これを太陽暦に換算する必要がある。ユダヤ暦では 1 年は 360 日。1 年が 5 日分短い。
だから、ユダヤ暦での 483 年間は、太陽暦では $483 \times 360 \div 365$ 。太陽暦では BC62 年。
この期間はユダヤ人にとって苦しい。エルサレムを持っているがゆえに苦しみの期間なんです。

何があるかという、初めはペルシア時代。

それから BC331 年に、ギリシアの天才的なアレクサンドロス大王が出て来て、33 歳くらいで亡くなる時、ものすごく人騒がせな遺言を残しました。部下たちが「この広大な帝国は、一体誰が引き継ぐべきでしょうか？」「最もふさわしい者に」で死ぬ。名前、言うてや。部下たちは皆「俺が一番ふさわしい」と思っています。それで彼の死後、部下同士で壮絶な帝国の総取り合戦。最終的に 4 つの国に分断されました。

その中の最大がセレウコス朝シリア。その支配下にエルサレムが入ります。この時代はもう…。

アンティオコス・エピファネス（BC215?-BC163or164/在位 BC175-BC163or164）という王が出て来ます。
エピファネスには現人神（あらひとがみ）という意味があって、「私は人だけど神だ」と名乗るだけではなく、それを人々に強要して「私を拝め!」。彼は、やる事が余りにもメチャクチャだったので、人々は陰口で「エピマネス（狂っている）」と言いました。

エピファネスはエジプトと戦争します。戦費が足らなくなる。どうするか？ エルサレム神殿の中にたくさんある純金製の調度品を全部取って、お金の換算して武器に変えた。それで、エルサレム神殿はボロボロになって行きました。

エピファネスはギリシア人です。ギリシア人が一番大切にしている神はゼウス。

ユダヤ人でも至聖所に入れるのは大祭司だけなのに、エピファネス自身がそこに入って行き、ゼウスの

偶像をエルサレム神殿にドンと置きました。

ゼウス神殿に献げる動物は決まっています。豚。ユダヤ人は、豚は絶対に食べない。ユダヤ人にとって最も神聖な場所に豚の血を流している。エルサレム神殿を持っているがゆえに、却って、それが汚されるのを見なければならぬという苦しみ時代。

このギリシア（セレウコス朝シリア）からユダヤは一時的に独立しますが、最終的に BC62 年の前年の BC63 年に、ローマ帝国がエルサレムを取りました。それからずっとローマの時代。

ペルシア時代・ギリシア時代・ローマ時代。ユダヤ人にはずっと苦しみ時代です。

しかし、その苦しみ時代の後、それ以降にメシアが来ます。メシアが来るのが BC5 年-BC6 年くらい。これが最初の預言ですね。

ダニエル 9:26 その六十二週の後、油注がれた者は絶たれ、彼には何も残らない。次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりまで荒廃が定められている。

「六十二週の後」は 7 を足すと「69 週の後」。ラストの 1 週に入るまでの間に 3 つの出来事が起こります。

①油注がれた者は絶たれ、彼には何も残らない。

油注がれた者（キリスト・メシア）は絶たれる。殺される。

「彼には何も残らない」には * が付いていて、直訳では「彼にはない。」彼には罪はないのに殺された。彼には責任も、死ななければならない理由もないのに殺された。他人のために自分を捨てた。

自分の過ちの刈り取りではなく、死ななければならない事は何一つしていないにも拘わらず、メシアはユダヤ人と異邦人、全人類の罪のために絶たれた。死なれた。それが起こる。

私たちは自己犠牲の話を知ると感動するし、鼓舞されるし、お返ししたいという心境になると思います。ここの次に針中野（はりなかの）という駅があって、私はそこで生まれ育ちました。

まさか、自分が小学校の時から暮らしていた町から、この歳になっても離れてないという。世界に羽ばたく予定だったのに、何でここにおんねんと思いますわ。私が通っていた小学校は南百済（みなみくだら）小学校。東田辺小学校の子供たちが、南くだらん小学校って悪口言うんですよ。「ナニ！」って。

朝鮮半島の三国時代に百済という国があって、日本とすごく仲が良かったんです。

しかし、白村江（はくそんこう/はくすきのえ）の戦いで（今は、はくすきのえと言わないですね）、百済が唐と高句麗（こうくり）の連合軍にやられそうになったので、日本に「援軍を送ってくれ、助けてくれ。」それで日本から大挙して海軍が送られたのですが、大敗を喫しました。大惨敗。

日本が帰る時、唐の大きな怒りを買ったという事で、百済の人たちがたくさん日本に渡って来ました。そして住んだのが、この辺りなのよ。

なぜここかというと、ここは東住吉と言うでしょ。東住吉区の名前の由来知っていますか？ 住吉区がでかすぎるから東に分けたんです。住吉区の行政区、でかすぎるから分けた。維新の会は、もういっぺん集めようとしてるんちゃうの？ 東住吉区の由来は住吉区。

住吉区の由来は住吉大社があるから。全国の住吉大社の総本山が大阪の住吉大社。住吉大社の神さんは船の神・海外航行の神・遠洋航行の神。今でも住吉大社の境内に入ったら、ここが遣唐使・遣隋使の船が出港したスタート地点という看板が立っています。

皆さんが日本史で習った遣唐使・遣隋使は住吉ですよ。東住吉は関係ない。切り取られてしまう。

ここからまた平野区が切り取られていくという、よう分からん世界。

白村江の戦い（663）で日本は大惨敗して、そのまま唐の捕虜になった人たちの中に、大伴部博麻（おおともべの はかま/生没年不詳）という人がいます。当時は捕虜交換とか国際戦時法とかないので、そのまま唐に連れて行かれてしまい、いつ帰れるかも分からない中、唐で生活していました。

そして、唐が絡んだ戦争のために、遣唐使（630-894）で日本から唐に来たものの、帰り損ねた遣唐使たち4人と友達になります。

遣唐使に選ばれる人は超エリート。フルブライト。Brightest & Greatest みたいな、日本の頭脳が一番上澄みを、まだろ過したような。それが空海とか最澄ですよ。空海（774-835）めっちゃ賢い。

「空海の作ったうどん、食ukai?」そんな事を言ってる場合じゃないんだから。もう、すごいエリート。

彼らはもちろん中国語ペラペラ。唐の都が、遣唐使が、遣隋使がどうなっていて、国際情勢がどうで、シルクロードがどうか、全部どんどん入って来ます。

その内、唐の都が騒然として来て、徴兵制が始まったり、色んな所から異民族の兵士が連れて来られたりする。それで、唐が大海軍を編成して、日本に攻め込む事が分かった。「あの白村江をそのままにしておかず。ここで日本を痛い目にあわせておかないとダメだ」という事で大軍事増強をやる。その情報が入って来るけど、日本に伝える手段がない。メールとかない。海を渡って行くしかない。でも、それは国費だからできるのであって、スッカラカンの遣唐使や捕虜の大伴部博麻にはお金がない。

そこで、大伴部は4人の遣唐使に言いました。「俺を奴隷に売れ。その代金で帰国して、今唐が大軍事増強して日本に攻め込もうとしているから、今の内に防人（さきもり）制度、屯田兵（とんでんへい）制度を整えて防衛できるよう、国家安全保障のために、この極秘情報を伝えてくれ!」。4人は躊躇しますが、彼は自らやってしまう。その金で4人を帰すのですが、そのために大伴部は30年間出れないんですよ。

唐から帰った4人は「これが今の国際情勢です。」それですぐに、日本の安全保障態勢がビシッとまとまりました。結論を言うと、唐は来なかった…。

大伴部は、来るかもしれないという事に人生の大半を捨てて、30年後に帰って来ますが、もうおじいさん。その時天皇は感激して、日本の長い歴史上初めて、民間人に勅令を出しました。ねぎらって「良くやってくれた。あなたの一族には生涯、税を掛ける事はない。私にとってあなたは宝物の人です。」そういう言葉が残っています。

強いられてではなく自己犠牲で、ものすごく尊いものを捨てて、その恩恵で助かったり恵みを受けたりした時、そうしてくれた人に尊敬や愛、ありがたいという感謝の気持ちが当然出て来ると思います。

ところが、**ダニエル 9:26 油注がれた者は絶たれ、彼には何も残らない。**

彼には何も悪い事がないのに絶たれてしまった。「キリストは全人類の罪を背負って、十字架にかかって死んで下さった。墓に葬られた。3日目によみがえった」と弟子たちは伝えるのですが、肝心のユダヤ民族は、民族としてはイエスというメシアを受け入れなかったんです。「あんな者、偽預言だ! ノー!」

AD30年にイエスが十字架にかかり、40年間の猶予期間があったけど、彼らは民族としては拒否しました。その結果ローマが攻めて来て、ユダヤ人は世界中に散らされ、エルサレムは完全に崩壊します。それがこの預言。

ダニエル 9:26 次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。その終わりには洪水が伴い、戦いの終わりま

で荒廃が定められている。

油注がれた者が死んで下さったのに、その犠牲を拒否した結果、次に来る君主の民が、都（エルサレム）と聖所（神殿）を破壊する。AD70年、ローマ軍がこの都と神殿を完全に炎上させ、100万人からいたユダヤ人を殆ど殺し、10万人足らずを奴隷として引っ張って行きました。

その（神殿崩壊）の終わりには洪水が伴い。旧約聖書で「洪水」という言葉は、ほぼほぼ例外なしに「侵略の軍隊の大集団」を指します。水の洪水ではない。

ローマはゲルマニア（ドイツ）を征服するのに2万人くらいですよ。ブリタニアを攻めるのも2万2千人くらい。エルサレムはもっと小さいのに、踏みにじるために10万以上の軍隊を投入したのは、ユダヤ人が徹底的に抵抗したからです。そこで、エルサレムの町を軍隊で何重にも包囲して兵糧攻め。

その終わりには洪水が伴い、大群が押し寄せてエルサレムが崩壊し、神殿は焼き尽くされ、ユダヤ人は再び世界中に散らされてしまいました。

戦いの終わりまで荒廃が定められている。AD70年にユダヤ人が世界中に散らされてから、次の1週が来るまでの間、中東のイスラエル・エルサレムは常に戦渦に見舞われます。荒廃が定められているから。次の1週が来るまでの間、常にエルサレムの問題は世界中の大問題になり、イスラエルはいつも憎まれ、攻撃を受け、最終的にはエゼキエル戦争が起こります。ゴグ・マゴグと呼ばれているロシアがイランやトルコを率いて、イスラエルに入って来るんですね。それが定められている。

この3つが起こらないと、ラストの1週には行きません。

①メシアが十字架にかかって死なれる。②エルサレムが破壊され、神殿が炎上する。③この地は最後まで荒廃したままで残る。中東がいつも戦渦・戦闘の場所になるという事です。

中東問題を解決しようと、トランプ大統領も切り札を持っていました。それはサウジアラビアを使って、イスラエルとアラブを結び付けて行こうという事だったのですが、あのカショギ事件。トルコの総領事館にカショギという人物が入って、営業時間の3時半を過ぎているのに、いつまでも婚約者の所に帰って来ない。そしたらもうバラバラにされて、死体は酸で溶かされたんでしょ？ サウジ、めっちゃ怖い。

ムハンマド・ビン・サルマン（1985-）MBS。毎日放送じゃない。

トランプ大統領が考えていた中東和平案が、あれで完全にダメになったんですよ。

中東和平を結ぶのはアメリカじゃないです。では一体誰なのか？というヒントがここに出て来るんですね。

ダニエル 9:26 次に来る君主の民が、都と聖所を破壊する。

AD70年に、都と聖所を破壊したのはローマ人でした。ローマ人の事を次に来る君主と書いてある。

つまり反キリスト。反キリストは、ローマ人の子孫だと言っているのです。ユダヤ人ではない。異邦人でローマ人の末裔。

次に来る君主の民（ローマ人）がAD70にイスラエルを滅ぼした。なので、その民の君主はローマの子孫。ヨーロッパから1人の男性が反キリストとして登場します。彼は、色んな政治家がやったけど出来なかった中東和平・荒廃が定められているイスラエル問題を、ものの見事に解決するために、イスラエルと和平条約を結びます。

それが、**ダニエル 9:27 彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。**

一週の間、多くの者と堅い契約を結び、これが患難時代の始まりです。

患難時代は何から始まるのか？ 反キリストが登場して、イスラエルと有効期限7年の契約を結ぶ事から。という事は、患難時代が始まるためには、いくつかの条件が必要です。

①反キリストの登場。②反キリストが契約を結ぶ相手イスラエル国の存在。

イスラエルが存在しないと、反キリストは契約を結ぶ事が出来ない。だから、イスラエルが登場するようになったら終わりの時代です。今、イスラエルは存在していますよ。1948年5月14日にイスラエルが誕生しました

それだけでなく、ユダヤ人はエルサレムに住みます。神殿ができるからです。なぜそれが分かるかという
と、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。

イスラエルを守るという有効期限7年間の契約を結ぶのですが、突然3年半で契約破棄して、いけにえとささげ物をやめさせる。つまり、やめさせる前までは行われていたという事。

いけにえが献げられるのは神殿です。患難時代には、エルサレムに神殿が建っているのです。

このユダヤ神殿を建てようとしている財団のトップに2回会った事があります。この人の名前はゲルシヨム・ソロモン。第1神殿建てた人は誰ですか？ ソロモン。しかも、秘書の女性の名前はバテシバ。思わず「なんで?!」今その時の記録を見ると、本気やなという事が分かります。

反キリストは誰と契約を結ぶのか？ 多くの者と堅い契約を結び。という事は全員ではない。「これは反キリストで、偽メシアだ!」と見抜くユダヤ人もいます。彼らが患難時代に救われるユダヤ人。ユダヤ人でイエス・キリストを信じている人たち。

後半の3年半に入った時、いけにえを中断させたのはなぜか？

ダニエル 9:27 忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。

翼は神殿の頂き。神殿の上に立つというのは、神殿を支配するという事です。かつてイエスが40日断食した後に悪魔がやって来て、彼を神殿の頂に立たせ、「飛び降りてみ。御使いが助けてくれるやろ？」
神殿の頂は神殿の支配者。

エルサレム神殿の頂に荒らす者が現れるとは、エルサレム神殿の頂に、反キリストの偶像が据えられる。そして「我こそは神である」と宣言し、全世界の人々に自分への礼拝を強要する。もしそれを拒否すれば、誰も売る事も買う事も出来なくなります。政治・経済・軍事の全てを握っている人物。恐ろしい事です。

しかし、**ダニエル書 9:27** **そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。**

暗黒の患難時代はいつまでも続くのではなく定められています。1日も延長されません。

1260日×2=2520日経つとピタッとドンピシャ、そこで反キリストは絶たれます。終わります。最終日にイエス・キリストが地上再臨して、反キリストを滅ぼすからです。

さて、この苦しみを通して、ここからメシア時代が始まるのですが、なぜユダヤ人は、この苦しみの時代を通るのでしょうか？ ユダヤ人は生き延びるために、ありとあらゆる知恵を絞っています。サバイバル民族で、今のイスラエルの頭脳はすごいんですよ。中国がそこにもものすごい金をぶち込んで、技術がみな中国にブワッと行って。「日本、何とかしろよ!」と。軍事技術はアメリカが睨みを利かせていると言うけど、イスラエルは中国に裏切られますよ。それ、もう平気だから。

でも、生き延びるためにどんなに創意工夫しても、患難時代には全部裏目に出るんです。反キリストとは呼ばれてないけど、「この人物と契約を結んだら、我々は生き延びる事ができるに違いない!」と思ったその契約によって、イスラエルは塗炭の苦しみを味わうのです。

彼らは7年間で考えるでしょう。「生き延びるためにこんなに努力し、神に祈り、創意工夫し、自分たちで出来る事は何でもやっているのに、どうして我々民族はこんなに苦しむんだろう? この2000年間、我々の歴史は何と苦しみだらけだったか。我々はどこかで間違っただけではないか? 何か道を決定的に誤っているのか、どんなに努力しても、頑張っても、裏目になって、追い詰められているのではないか? 我々の決定的な過ちは何だったのか? 2000年前、メシアとして来られたナザレのイエスを偽預言者だと拒否しているからではないか?」「そうなのだ」という事を宣べ伝えるユダヤ人たちが、患難時代に出て来ます。

間違っている時に上手くいったら、間違っているとは思いません。行き詰まった時に「なぜ行き詰まっているのか、どこで間違っただけなのか」を反省するし、自分自身を探ります。間違っただけで行っているのに、やる事なす事全部上手くいったら、やり直しの動機付けは生まれません。ベストを尽くしたのに、民族が絶滅寸前まで行った時、「何が違うのか?」「メシアを拒んだからだ」と思い至る。それを分からせるために、患難時代はあるのです。

ダニエル 9:24 あなたの民とあなたの聖なる都について、七十週が定められている。それは、背きをやめさせ、

背きは「ペサー」という言葉。しかも「ハ ペサー」。ペサーは単なる罪ではなく、非常に強く非難されるべき罪。特に「ハ」という定冠詞が付くと、決定的で致命的な罪・背き。

「これをやめさせるために、苦難の歴史を通ります」と言うのです。

ユダヤ民族にとって、神への決定的な背きとは何でしょう? 神が送ったメシア/イエス・キリストを拒否しているという事です。この背きが拭い取られるために、最後の1週をくぐります。

しかしその中で、「ナザレのメシアは偽物ではなく本物だった!」と悔い改めた後、彼らは地上再臨のキリストと再会するんです。そして回復したユダヤ人たちが、千年王国で中心的役割を果たすようになる。悔い改める事によって、素晴らしい祝福が来るというメッセージなんですね。

ざっと申し上げて来ましたが、間違っただけで頂きたいのは、聖書預言は怖がらせるためのメッセージではありません。この結論は、反キリストは定められた絶滅によって倒れるという事です。悪魔の代理人は完全に除かれる時が来る。

今辛いと、いつまでもずっと辛さが続くように思い易いのですが、人生でも歴史に於いても、神様は私たちに良いものを準備しておられます。その良いものを受け取った人には、良いものが必ず待っている。良いものの希望が、私たちを生かすんじゃないですか?

将棋の藤井聡太（ふじい そうた/2002-）7段、僕は大好き。大盤解説では藤井先生と呼ばれる。でも羽生さんに頑張ってもらいたい。多分、世代的なものがあるのかもしれませんが。

羽生さんが小学校1-2年頃に、友達の家で初めて将棋を見て、やり方を教えてもらった。「面白いなあ!」次の年、埼玉県かどこかの子供将棋大会に出たけど1回戦で負けました。とっても悔しい。それで、皆すごく強くなると評判の将棋教室に通いました。

どんな教え方か、彼が本に書いています。普通、将棋教室ではアマチュアの1番下は8級。昇級試験で

段々1級に上がって、段になって行くんですが、彼が行った所は15級から始まるんです。日本将棋連盟に15級という級はない。この教室だけで通用する15級。余りにも低い所から行くので、ちょっと動かし方覚えてだけで14級に。ちょっと勝ったら13級に。人間、上がって行くと楽しい。私はアイパッドに将棋ゲームを入れてて、ハマるとやめられませんか。負けたら急にやりたくない。勝ったら「かかって来い!」と1人で。何時間もしませんよ。3勝負くらいかな。

ドンドン強くなれるという希望があると、やる気が出て来ます。上がったりがったり下がったり下がったりしていたらやめなくなる。希望があると、前に向かって行こうとします。夢中になります。努力は夢中に勝てない事がある。夢中になるには、勝つという経験をする事です。13級で天才!みたいな。希望の力は大きい。地上にも小さな希望がたくさんありますが、大局観を考えた時、死んでも変わらない希望、歴史が終わっても、患難時代に入っても変わらない希望、そんな希望をお持ちですか?

三浦綾子(みうら あやこ/1922-1999)さんはクリスチャン作家ですが、クリスチャンになる前に結核に罹り、脊椎カリエスという病気になって、コルセットに体を入れ込まれて、8年間寝たきり状態。いつ治るのかも分からない状態。投げやりで、刹那的になっている時に、あるクリスチャンと出会って神の話を聞くのですが、その人がいかにもお坊ちゃまに見えた。

「神さんというのは、あなたみたいに恵まれた家の人、暇で人生の苦難を知らない人が、趣味でやってたらしいのよ。私は、あなたが知らない壮絶な人生を送っているんだから。」けんもほろろ。

でも、御言葉を書いたカードや聖書を読んでいく内に、ふと考えたそうです。「神がいると生きて生きるのと、神なんかおるか!と考えて生きるのでは、どういう違いが出て来るか? 神はいないと生きてきたら、これからどんな人生を生きるだろう? 神がいると生きてきたら、どうなんだろう?」両方とも想像してみました。「神はいない」で生きてきたら、その時々が楽しければそれで構わない。いつ死ぬかも分からないし、治らないかも知れないから、快樂主義に溺れたり、おべんちゃら言って不誠実であったとしても「だから何なのよ!」

でも「神がいる」で生きてきたら、「私を造った方が存在する」と思って生きる。「私には人生の目的があり、人生の使命を与えて下さる神様が見守っている」と思って生きる。「私を愛し、素晴らしい祝福を準備して、帰って来るのを待っている方がおられる」と思って生きる。そう思い巡らしている時、何とも言えず心の深いところが溶けて来た。

「神がいると思って生きる事を分かりたい。分からせて下さい」という祈りに変わっていったそうです。

私が創造主を信じた根拠は聖書預言です。調べれば調べるほど、単なるお話ではなく、書かれている通りに人類歴史は動いて来た。これは、どんなに疑り深い人にも、「聖書の言葉だけは信じて間違いない」という証拠を提供しているのではないですか?

それは同時に、「背きの罪をやめて、キリストに立ち返ろう。創造主のところに戻ろう」という神からの招きなのです。

ダニエル書が1番言いたい事である「メシア」と是非出会って下さいますように、心からお勧めして終わりたいと思います。

~~~~~

\* 動画は YouTube で「**HCA 東住吉キリスト集会**」検索。ぜひ見て下さい。

\* ラジオ番組「**聖書と福音**」(15分)も是非どうぞ。YouTube もあります。

動画筆記: Rumi